

| | | | |
|----------|---|-------------|--|
| 科目 | 交通システム工学 (Transportation System Engineering) | | |
| 担当教員 | 橋本 渉一 | | |
| 対象学年等 | 都市工学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II) | | |
| 学習・教育目標 | 工学複合プログラム | A-4-4(100%) | JABEE基準1(1) (d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g) |
| 授業の概要と方針 | 大量輸送の公共交通機関である鉄道は、均衡ある国土と経済社会の発展に欠くべからざる社会基盤施設である。国内外ともに高速化、環境対策、システムの近代化を目指した技術開発が盛んに行われている。都市工学技術者として必要となる都市内交通および鉄道工学の知識と基本的技術を習得する。 | | |
| | 到達目標 | 達成度 | 到達目標毎の評価方法と基準 |
| 1 | 【A-4-4】交通の歴史，総合交通体系について説明できる。 | | 交通の歴史，総合交通体系について理解できているか，中間試験で評価する。 |
| 2 | 【A-4-4】鉄道軌道と車両の関係について説明できる。 | | 鉄道軌道と車両の関係について理解できているか，レポートおよび中間試験で評価する。 |
| 3 | 【A-4-4】高速化の技術開発と環境問題について説明できる。 | | 高速化の技術開発と環境問題について理解できているか，定期試験で評価する。 |
| 4 | 【A-4-4】駅の整備と都市計画の関係について説明できる。 | | 駅の整備と都市計画の関係について理解できているか，定期試験で評価する。 |
| 5 | 【A-4-4】超高速鉄道の技術開発について説明できる。 | | 超高速鉄道の技術開発について理解できているか，レポートおよび定期試験で評価する。 |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 総合評価 | 成績は，試験85%，レポート15%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。 | | |
| テキスト | 「鉄道工学」上浦・須長・小野田，(森北出版) | | |
| 参考書 | 「第2版図説鉄道工学」天野他，(丸善) 「これからの都市交通」都市交通研究会，(山海堂) 「新しい都市交通システム」都市交通研究会，(山海堂) | | |
| 関連科目 | 都市システム工学，都市交通計画学 | | |
| 履修上の注意事項 | | | |

